

第1回埼玉県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム運営協議会

1. 日時 令和6年6月6日 15:00～17:00

2. 議事(概要)

〈事務局〉

資料説明。

〈中島会長〉

ご説明ありがとうございました。

昨年は若者の繋がる場所ですとか、高齢者の居場所の議論をしてきたわけですがけれども、今年度は、前回のご議論もいただきまして、妊産婦や乳幼児の子育て期における孤独・孤立対策というところを、1つ議論したらいいのではないかと事務局からの提案です。この点についていかがでしょうか。

〈坂本委員〉

前回、私の方から発言させていただいたのをピックアップしていただいてありがとうございます。

うちの法人は新座子育てネットワークという名前の通り、乳幼児期から育ち上がるまでのこども、家庭の支援をしておりまして、特にうちの取り組みの始まりが乳幼児の子育て中の親子の支援ということで、地域の中にある子育て支援センター等の運営というところがあります。

子育て支援センター、地域子育て支援に携わる県内の皆さんの研修等もさせていただいている関係で、そういう意味では埼玉県の中に、地域子育て支援拠点という事業名称で、600弱の施設があります。

赤ちゃんを妊娠中の方から生み育てる段階の最初のところで、一番身近な、地域の中にある、誰でも利用できる、遊びに行ける施設として、用意されている場がこれだけあります。子育ての孤独感っていうのは、育てている方がメンタルの不調だったり、行き過ぎた家庭の中でいろんな密室化して、虐待に進んでいたり、様々な問題をはらんでいますので、孤独になりがちな今、核家族化と都市化、というところで緊迫した状況もあつたりしていますので、ぜひこのプラットフォームに皆さんに入っていて、孤独・孤立の対策の意識を持って子育て支援に携わってもらいたいなと思っておりまして、今回テーマにさせていただいてとても取り組んでいきたいなと思っていますところ です。

〈中島会長〉

ありがとうございました。

今、地域子育て支援拠点は県内に何か所あるとおっしゃいましたか。

〈坂本委員〉

600弱ですね。去年の頭の数字で500半ばぐらいだったと思いますので、増えていると思いますので、正確な数字は、こども支援課にご確認いただければ最新の情報をお持ちだと思います。

〈中島会長〉

ありがとうございます。

こういった600が県内にバランスよくあればいいですけど、どうしても地域によって偏りもあつたりすると思いますので、そういう、拠点をうまく生かしていく、或いはこれから作っていくというような議論になるということですかね。

〈坂本委員〉

ちょっと追加で、その中でも、今、地域子育て支援の職員プラス相談の専門の対応をする利用者支援専門員という職が置かれています。

その方たちの数は公表されていないですけれども、子育て支援拠点自体も相談機能を役割として与えられていますし、さらにそこに、特に相談専門、あと地域との連携専門という、外の機関とつなぐ役割を担う利用者専門員というのが今配置されていますので、非常にそこは、利用者支援専門員も含めて、ターゲットにしていきたいと思いますと思うところです。

〈中島会長〉

利用者支援専門員という専門職もそこにいるんだという情報をいただきました。ありがとうございます。皆様、こどもの分野、関心持って取り組まれている方多いような気がするんですが、いかがでしょうか。何かこういうような意見交換をしたらいいのではないかと、ご提案などありますか。

〈小池委員〉

今坂本委員からもお話がありました通り子育ての中でも、本当に妊産婦、生まれる前から乳幼児の時期は、とても大切な時期だと思っていて、ここの孤独・孤立を取り上げられるのはすごくいいテーマだと思います。

特にこの分野は、子育てという福祉のところと、それから検診とかいわゆる保健師さんの、乳幼児健診とか、あと小児科医の方も非常に関わっていて、保健・医療・福祉が、連携して取り組まなくてはいけない分野なのになかなか連携しにくいところではないかと思えますので、そういった保健師さんの分野、助産師さんの分野、できたらドクター、小児科の先生方でもその時期の孤立を非常に課題にされている先生方もいらっしゃると思いますので、そういった専門家の意見と、福祉の分野でも福祉の分野から専門で考えている方々、NPO 団体等で本当に身近な視点で活動されている方たちが交流することによって、全体で取り組めるような形の意見交換会になるといいんじゃないかなと思えましたので、そういった視点も取り入れていただければと思います。

〈中島会長〉

大事なお指摘いただいてありがとうございます。まさにこの分野、非常に子育ての孤立の部分というのは大きいですね。

そういう意味で、保健師の方ですとか様々なサポートがあると思いますが、私の点から言うと父子家庭のお父さんがですね、やっぱり私も子供が小さいとき保育所に連れていったりしましたが、お母さんが多くてですね、なかなか男性のパパ友達が作りにくかったり関わりにくかったりというのがあって、まだ母親もいればね、夫婦で子育てできるんですけど、ひとり親家庭というのはなかなか、孤立化しやすいというのは、まだまだあるかなと父子家庭の支援も増えて参りましたけれども、そんなこともあるかもしれないですね。

〈神吉委員(代理:星野様・高橋様)〉

コンパスナビの星野です。よろしくお願ひします。

こちらのプラットフォームの周知のための広告宣伝ということですが、うちでもよく、私どもの自分の団体を宣伝するのに結構試行錯誤してしまって、ぜひ、今のところ私たちがわかっているところだと、フェイスブックは、高齢者向けの広告で、TikTok であるとか、Instagram、あと X(エックス) 離れも結構しているらしいですけど、その辺だと、若者とか、子ども向けみたいなことで、ちょっとずつ使い分けた広告を打っていただければなというふうに思っております。

SNS 今いろいろと使う年代層がだんだん明確になってきているので、より効果的な広告をしていただいて、良い取り組みなので、ぜひ広く広めていただきたいと思います。以上です。

〈中島会長〉

はい、ありがとうございました。

これも大事なお意見ですね。SNSは、本当に各世代、年代で主に使うものが違いますもんね。そういった意味で、どの年代・世代に、何を伝えていくのか働きかけていくのかということで、使うものもコンテンツも違ってくるといことだと思います。情報発信の部分で今大事なお指摘いただきましたけれども、そのほかいかがでしょうか。

〈松下委員〉

久しぶりに出たら、妊産婦のことをテーマということで、私のところは妊産婦支援といいますか、若年妊娠などの支援をしている団体なので、どういこと困難を抱えてしまうかといことを、皆さんと共有できたらいいなと常日頃思っていたので、とてもありがたいテーマだと思っています。

先ほど済生会の小池さんも仰っていましたように、やっぱり医療でも保健だけでも足りなくて、福祉の分野がとても大きい、それから、いろんな困難を抱えるには抱えるなりの状況があって、虐待があったりとかパートナーのDVがあったりとか、いろんな暴力にもさらされているということが見えているんですね。だからそういうことを皆さんと共通理解していただいて、そして埼玉県ではどういことができるのかといことを、一緒に考えることができたらとても素晴らしいなというふうに、思います。

母子保健の方で、健康長寿課では、今年度居所のない妊婦のための支援という施策を始めています。そのコーディネート業務を私たちが請負っているのですが、埼玉県では昨年度24人居所のない妊婦がいたそうです。

その24人の居所のない妊婦をどうにかしようといことで、この事業が始まったといこともあるので、いろいろな埼玉県内の、データも健康長寿課の方からいただいでいて、それを皆さんと共有していかどうかまだ確認してないですけども、そういうデータもありますので、それをもとに皆さんと一緒に考えられたらいいなといふに思っています。以上です。

〈中島会長〉

ありがとうございました。

今、居所のない妊産婦といことだと思ふのですが、これは例えば10代とか20代で妊娠に気づかない、若いお母さんもいたり、例えば今、ネットカフェとか漫画喫茶を転々とする若者も増えているので、そういう方でしょうか、どういった方が主に想定されますか。居所のない妊婦さんといのは。

〈松下委員〉

いろいろな事情があるので一概には言えないですけども、虐待などがあって家にいられないであるとか、何かの理由で家から出てしまって、家へは帰れず日雇いの仕事などをして過ごしているという方が多いかと思ふます。ただそればかりでなくて、昨年、その居所がない妊婦さんもちろんそうなんです、非常に危機的な妊娠をしてしまつとか見落としをしてしまつ妊婦さんは、家族と一緒に住んでいてもそういうことになるといことで、多分、無関心或いは家族がわかっていても妊娠に向き合わない、結局、妊娠のことを本人はわかっているけれども、例えば親には言えない、だから、親の目から逃れるために他のところに行くであるとか、そういうこともありまふ。

本人はわかっているけれども、妊娠のことを話してしまつ例えばバイトができなくなるであるとか、学校に行けなくなるであるとか、いろんなことがあって、妊娠と向き合いたくないんです。本人もね。例えば家族の人がもし、妊娠かしらつて思つて確認をしても、本人が太つただけとか、今なぜそういうことを言うかといと、ヤングケアラーの子供もとても多いので、これ以上親に心配かけたくないと思つている人がとても多かつたりするんですね。

そうすると、親御さんにすぐに言われても、心配かけたくないって思つから、妊娠してない、太つただけとつう。そうすると親御さんもやっぱり、経済的にそんなに余裕があるお家つて今少ないですから、夫婦で毎日一生懸命働いているわけですよ。そうすると、その認識、こどもの妊娠といことに向き合つ時間がないといこともあるんじゃないかなと思ふ。なのでそう言われると、それ以上は突っ込

んで聞かないで、妊娠後期 36、37、38 週になって、私たちのところに連絡が来るっていうような状況も、埼玉県でもあります。

だから、そんな状態の中でうちにいられないと出ちゃう人もいるし、高校生になって私がされていたことは虐待なんだと思って、うちを出てしまうと。いろんな理由です。だからうちがないっていうことの孤独もあるし、家にも孤独・孤立であるっていうことが、若年妊娠で危機的な妊娠をしてしまう人の背景にはあるということが、私達の相談窓口から見えてきてるところです。

〈中島会長〉

ありがとうございました。

妊産婦を取り巻く、どういう課題が県内にあるのかをみんなで話し合っ、見える化していくってとても大事なこともないですね。

この少子化の時代に、こどもの出産ってとても大事なテーマだと思うのですが、それがこんなに不安だったり、おびえながらこどもを出産しなきゃいけないとか、妊娠を隠さなきゃいけないのは、本当につらい話だなと思って聞いていました。ありがとうございました。

またこういった意見交換の中で、こういうテーマを、話ができれば、どうやって安心して出産ができるのかとか、ちょっとつらい思いを分かち合っ、楽に楽しく出産ができるのかっていうところ持っていきたいですね。とても今、重たいテーマがあるということを教えていただきました。ありがとうございました。

〈青砥委員〉

さいたまユースサポートネットの青砥です。皆さまお世話になります。

今回、妊産婦さんですとか乳幼児さんの子育て期ということで、我々の団体は主に困窮層のこども・若者支援をしており、対象は、小学生年代からとして事業はやっていますが、年齢制限を設けているわけではなく、子育てに疲れてしまって、お兄ちゃんももう年長さんぐらいの年代だけれども、小さい妹が生まれた子育てに疲れてしまって妹の方に向き合えない、もう顔も見ることができないですという近所のお母さんも駆け込んでいらっします。我々の居場所のところで休んでもらったり、私達がこどもと遊びながらお母さんに休んでもらったりしています。あとは私たちが先ほどおっしゃられていたような孤独な出産を経験しているような女性と繋がっていることもあって、その方はもうすでに出産してもこどもは養護施設に引き取られて、彼女 1 人で生きている状態ですけども、そういう方たちの支援をする際に、我々はシェルターもグループホームもないので、私たちだけでは、できることにも限りがあります。そのような時に具体的な事例を通して、連携できる団体間で、自分がそれぞれにできる範囲、役割を明確にすることで、地域でつながりを作り、切れ目のないサポートができると考えています。例えば、最近もコンパスナビさんの皆登会に利用者さんの支援をお願いしました。

事例を通してお互いの役割を確認することで、具体的な連携につながるかと思います。

〈中島会長〉

はい。ありがとうございました。具体的な事例を共有する場をということでお話をいただきました。

今お話いただいたように、児童福祉法でもこれから子育ては、親だけではなくて、社会全体で子育てをしていこうということが大きなテーマになっているかと思うので、そういう意味で、私たちに何ができるのかということですね、地域で。

親だけに、子育てを押し付けるというか、責任を持たせ過ぎないということもみんなで考えていくことは大事なんだろうと思います。

例えば、企業の立ち場で、武蔵野銀行の田中委員さん、何かご感想でもいかがでしょうか。社会で子育てをしていく観点から何か、お取組ですとか、お考えとかもしありましたらいかがでしょうか。

〈谷口委員(代理: 田中様)〉

代理の立場で、ご意見を差し上げるのは大変恐縮ですけども、いただいた資料で気になったのが、メタバースの話で、バーチャルユースセンターという話です。多分、こういった環境に置かれてる方々は、ネット環境含め、またデバイスもそうですけども、恵まれて

いない方も結構いらっしゃると思います。そういった方々にどういふふうに伝えていくのか、使ってもらふかというのも重要になってくると思うので、結構メタバースは重たいものがあると思います。そういったものをもう少し皆さんが身近に感じられるようなところとか、極端な話ですけど、貧困な方になってくると、インターネット自体の接続が、フリーWi-Fiがあるところにわざわざ行ってつなげて、連絡を取ったりとか、そういう方もいらっしゃると思います。

ですから環境も含めて何かご提供できると、ここ行けば、ここにつなげられる、例えば本行の宣伝をするわけではないのですが、本行の本店には M's SQUARE というフリーWi-Fi の共有スペースを持っていて、Zoom とか社会人の方も使ってもらっていますので、そういった場所をご提供いただき、積極的にこういったツールを、使っていただけるようなことをしていただけたらいいんじゃないのかなと思います。 よろしくお祈りします。以上です。

〈中島会長〉

ありがとうございました。ネット環境やフリーWi-Fi、こういった環境を作っていくと言ったら企業の皆さんの貢献が大きいのかなというふうに思っていました。

埼玉りそな銀行の鈴木さん。いかがでしょうか。今までの議論を聞いていてご感想でも結構ですが。

〈鈴木委員〉

埼玉りそなの鈴木です。

我々銀行、武蔵野銀行さんもそうですが、いろいろ企業として取り組めることは何かと、日々考えていて、一昨年、例えば越谷市にこどもの拠点を作ったり、あとは今年になって三郷にリースペースで、銀行がやっている 9 時から 5 時まで月から金まで、非営利団体さんは無料で借りられるスペースを作って、三郷菜の花ガーデンという名前でオープンしています。そこは物販をやるんだったら貸し会議室になるのですが、非営利の方が使うのであれば無料で借りるスペースを作って、今、地元の団体さんに活用していただいています。1 つ 1 つ自分たちの持っている資産で何か社会に役に立てるようなことないかともがきながらやっています。

今の我々が持っているこどもの拠点は、基本的に社員がボランティアで、夜に勉強を教えに行ける人は登録して行っているような状態で、私ももう極力夜はあけて、せんげん台に足を運ぶようにしています。感じることは、今日ご参加いただいている団体さんでないとわからないこと、感じられないことがたくさんあって、ホームページでアクセスを用意していますよと言ってもなかなかそこにたどり着かない。困っている人たちが絶対いて、せっかくこれだけ団体さんが集まっているので、誰が音頭を取るかはありますが、こういうことに困っているよ、じゃありそなのところはここが空いているからただで使えるよ、と、そういうマッチングはたくさんできると思うんですね。

ただ、プラットフォームでちゃんとカチッと、こういう成果というふうに出すことは大事ですが、この今の今でも、皆さんおわりの通り、困っている人たちはたくさんいて、もうすぐにも LINEWORKS でもみんなと繋がって、コンパスナビでこういうこと困っている、りそなではこういうことができるか、そこを瞬時にやっていった方が、流れながら問題も解決しながらいろいろ気づきがあるかなと、難しいかもしれないですが、思いました。ありがとうございました。

〈中島会長〉

はい。ありがとうございました。非常にスピード感のあるような形のお話だったような気がします。

〈神吉委員(代理:星野様・高橋様)〉

実はですね、企業様からうち、iPad30 台、寄贈していただいております。ですので、貸し出しができます、デジタルデバイドのあるご家庭にご活用いただけるというの一点。もう一つ、就職活動用のスーツ、スリーサイズそろえてあります。かばんも靴もそろえてありますので、こー一番っていうときは第 1 印象が大事なので、貸し出しますから、お声がけくださいと紹介ができます。

逆にうちは、一軒家を貸していただけるとはいいかなという、悲願がございます。

〈中島会長〉

ありがとうございました。何かそういう情報共有というか、交換ができるといいですね。ありがとうございました。

〈小池委員〉

今の話で関連ですが、こども応援ネットワーク埼玉という、こども応援のためのこういうプラットフォーム的なものを埼玉県で持っています。そちらはホームページを持っていて、提供できる人とこういうのが欲しい人をそれぞれ登録してマッチングできるようなサイトもありますが、なかなか活用が進んでないように見えます。

そこでいくつか、例えば先ほどコンパスナビさんからお話ありましたが、古民家使ってくださいみたいなもの今上がってたりします。場所の関係もあって、うまくいかないのかもしれませんが、マッチングサイトをせつかく作っても、いくつかはマッチングされていると思うけれども進んでないような感じがあって、何が課題なのかなあと、本当に外から見ていて思っています。

先ほども銀行の方からもお話ありましたがそういうのがもう少し活性化するような工夫も、今回のこのテーマから少し外れるかもしれませんがこの議題 1(3)の、マッチングでは、今あるものの課題も解決してもっと進むような議論もいただけたらいいと思いました。

〈中島会長〉

今ある仕組みをさらに動かしていく意味でもとても大事な情報いただきました。こども応援ネットワーク埼玉というのが動いているということですね、ありがとうございました。

まずは、妊産婦、子育て期のところ一旦ここぐらいまでにして、次は不登校経験のある若者の話にも移っていかうと思いますが、東先生この点いかがでしょうか。事例を集めたり、この辺りについて話を少し先生からしていただきますとありがたいです。共通メタバース空間のところの不登校経験があるもの或いは好事例のデータベース化とうところにもなろうかと思えます。

〈東委員〉

聞き逃したかもしれませんが、つながる SAITAMA フェスタは、どのぐらいの期間やるんですかね。12 月頃予定と書いてあります。

〈事務局〉

つながる SAITAMA フェスタは今のところ、長くて 1 週間かなと思っております。3 日から 1 週間程度を想定しております。

〈東委員〉

わかりました。3 日から 1 週間程度で、多分メタバース空間を作って、はいどうぞと開いてもなかなか集まらないのではと思ったので、例えばメインターゲットで妊産婦や乳幼児の子育て期の方、不登校経験がある若者と書いてありますが、不登校経験の方でいったら結構こう母体になる団体がたくさんあると思います。NPO 法人で不登校の子供を受け入れている、支援している団体は、県内結構ありますし、それから行政の方でも教育支援センターは大体市町村に 1 ヶ所はあって、そういうところの交流会みたいなものを企画として入れる形にすると、集まるのではというふうに思いましたね。

せつかくメタバース空間であれば、私が知っている範囲でいとさいたま市と戸田市は、不登校の子供たちにそのメタバース空間を提供して、支援しているので、その辺の先進事例、やっている事例を紹介していただいたりするのもいいかなと、初回ですので、そんなことは思いました。

あとは自由に入ってきたとしても、ただ入って相談しましょうだと、多分難しいなと思っていて、不登校の子が集まっているいろんな居場所同士の交流会と言っても、交流しましょうでは、なかなか進まないの、例えばゲーム大会だとか、団体対抗かるた大会のような、メタバースでできるものという企画を入れたほうがきっかけになるのではと思いましたね。

あと最近、どこまでできるかわからないですが、ネット上で e スポーツ系のもので結構対抗戦ができ、メタバース空間で、手ほどきのところから始めていくという方法もあると思います。ここにコンテンツと書いてあって活動紹介ブース、相談コーナー、これはもちろん

あっていいと思います。ただ集客のためにそのイベントを、少しターゲットを絞ってもっていくのがいいかなと思いました。

今挙げた例は大体中学生が中心のところが多いですが、2月の県議会の一般質問を私見ていましたら、今、3つの高校にその居場所カフェみたいなを作るとい、高校の中に居場所を作る答弁を教育長がしていました。全国的に高校の中の居場所カフェっていうのが、あちこちで作られ始めています。埼玉県もやっています、高校中退、それから高校不登校の予防的な意味合いがありますが、もしそういうのが動き出しているんだとしたら、声をかけてもいいかなと思いました。或いは埼玉県は東京都のようにはっきりとチャレンジスクールと不登校経験のある子が来られるとこですよというふうには大々的には宣伝してませんが、ただ通信制高校とそれから定時制の二部制三部制を持っている戸田翔陽とか、吹上秋桜とか、居場所を求めている人たち、子供たちは結構いると思うんですね。そういう高校に少しチラシまくと声をかけるとか、QRコードまくと、県内の高校生の交流の場所みたいなものができそうな気はしました。例えば通信だけに絞ってもいいぐらいですが、他にも参加したい高校生もいると思うので、その中学生高校生、或いは高校中退してしまったっていう子その辺を1つターゲットにしたイベントを、考えるといいんじゃないかなと思いますね。

メタバースがどう空間で作られるかわからないですが、イメージ的にディズニーランドみたいに何とかランド何とかランドという感じで、うまく配置をしていけば、入りたいところに入っていける仕組みはできそうじゃないかなとは思っています。

私もよく知らないのですが、とりあえず共通メタバース空間の活用についてはアイデアの範囲ですけれども、思いました。

〈中島会長〉

ありがとうございました。

対象を明確にしていくということ、それからもうすでに中学校など不登校支援やっているNPOの皆さんがられるのでそういったところを大事にしながら、展開していったらいいんじゃないかということや、或いは高校の居場所カフェ、確かに今、神奈川などを中心に発展して広がってきていますよね。先生ご指摘のように。まさにそういうものと繋がるということも、ある種通信制高校との関係ということだったり、eスポーツを使って楽しく、そういった居場所を作ってはどうかと、いろんな大事なご提案をいただいたかと思います。

ありがとうございました。

いかがでしょうか。支援をいただいている方もおられると思いますが、よろしいでしょうか。坂本さん。

〈坂本委員〉

メタバース空間に、妊娠中の方、妊産婦、子育て中の方が参加はハードルが高いかなと思いました。お子さん抱えながらということ、バーチャル県庁の中だったらVRやる余裕はないと思うんですけど、逆に覗きにこられる方たちだけでなく、何か子育て支援やっている団体さんが身近なところいっぱいあるよと情報発信するような形だったり、身近に相談に対応してくれる人いますよという紹介をするような方法の参加の仕方にちょっとウエイトがあった方がいいのかなと思ったりしました。以上です。

〈中島会長〉

メタバースの活用の仕方ですね、活動紹介に力を入れて、身近な団体などの情報がわかるようにしたらいいんじゃないかという話でした。ありがとうございます。いかがでしょうか。

唐沢委員、いかがでしょうか、先ほど不登校の話題が少し出てきましたが。

〈唐沢委員〉

中島先生ありがとうございました。

前回の委員会のときに、メタバース空間のことにとても興味を持ってお話を聞いたのですが、なかなか具体的なイメージがつかないでいました。うちもひきこもっている若者の居場所を開いているんですけど、その持っていくかたにすごく悩んでいて、メタバース空間に何かヒントがあるのではないかと思いました。先ほどの東先生のお話を聞いて、すごくイメージが湧いてきました。今、聖学院大学の学生、その子も不登校経験がある学生が何人かボランティアに来てくれていて、その学生と考えていけるのではないかと思いま

した。今日は、すごくありがたかったと思っています。

〈中島会長〉

はい。お話の通り、だんだんいろんなものが具体的にイメージできるような形に、皆さんのお話の中で、どんどん具体化してきているかなというふうに思います。ありがとうございます。

〈坂本委員〉

内閣府の孤独・孤立で5月にぶらっとば～すっていうメタバース空間やられたの、参加された方はどのくらいいらっしゃいますかね。私も覗きに行っただすけれども、X上で大バズりしたという話が、Xでぶらっとば～すって検索すると、いわゆるVRの先端をやっている人たちにボロクソに言われています。きっかけは古市さんという若手の学者のテレビによく出てらっしゃる方が、X上でつぶやいたことです。後半になってくるといろいろな対策を打ったがゆえの展開だったと肯定的な意見も出てきていて、分かる人には分かるけど、すごい良いお手本が最初に示されたと思っていました。

関心を持ってくださる方すごく多いんだというのが、コメントの内容はともかくとしてですね。VRの中で居場所を見つけている人たちにとって、すごく関心を持ってもらえたものになったなと印象としてありました。他に入られた方いらっしゃったらぜひこの場で体験をシェアしてもらえるといいかなと思います。

〈中島会長〉

はい。ありがとうございました。ぶらっとば～すですね、ご存じだった方いるんですかね。手挙げマークで、教えていただくと。

あまり出てきませんね。

そうすると参加された方はおられますか。坂本委員さん。

〈坂本委員〉

わたしだけでしたか。そしたら後でぶらっとば～すで検索してもらおうと、いろんな人がいっぱい画面をキャプチャーとってXであげていらっしゃるの、こんな感じだったと勉強できるかと思います。

〈中島会長〉

でも若い人が関心してもらおうのはいいですよ。いかがでしょうか、今までの議論の中で、皆さんに発言をしていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

例えば、イオンリテールの永井さんですかね。今までの議論聞いていただいていた方がいいでしょうか。

〈永井委員〉

はい。我々イオンリテールという会社は、イオン初め、イオンモールなどの建物、場所の提供がメインになってくるかとは思いますが、一般的に、そこにお買い物に来られている方を対象に何かイベントをやりますとか周知をしたいですとかは、積極的にご協力いただくことが可能かなというふうに思っております。

今までの議論を聞いていて、マッチングの話もそうなんですけれども、問題を抱えている人にどう気づいてもらうかは、おそらく広く周知しないと、何を抱えていてそれに対してこういったものを解決するきっかけはこういうのがありますよと、そこをマッチングさせる、その人にとってのマッチングっていうのもそうですし、企業同士、いろんなことをやられている方たちの集まりとの、マッチングみたいなところも2つあるのかなというふうに、聞いていて思いました。

〈中島会長〉

ありがとうございました。そうですね普通に一般的に生活をしている方が、ふと子育てのことで何か繋がってみたいかと思ったときに、そういうものがどこにあるのか、そういうことですかね。そういう情報をいかに広く伝えていか共有していかってことだと思います。

そういうものが、SNS ですとか、ぶらっとば〜すとかそういうものにさらに繋がっていけばいいんだろうかと思えますけども。

あとはいかがでしょうか。少し行政の立場からのご意見も聞いてみましょうか。川島町いかがでしょうか。

〈岩野委員(代理:長谷川様)〉

はい長谷川です。私もこれまで皆様のご意見を伺った中で、これだけ実践経験のある、本当に皆様にご参加をいただいておりますので、どれだけ対象の方々、妊産婦、孤独・孤立を感じている方々に、情報を届けられるかということが一番大事なのかなというふうに思ってお話をお伺いさせていただいておりました。以上です。

〈中島会長〉

はい、ありがとうございました。そうですねいかに情報伝えられるは、行政にとっての大事な役割ですよね。

今戸田市さんからも音声が出ないことでメッセージを、チャットに入れていただきましたので、ぜひ見ていただけたらというふうに思います。

相談窓口やメタバースなどの様々ツールがあれば、どんな形であれ、対象者の方に繋がればいいと感じておりますというようなこと、皆さんにメッセージいただきました。ありがとうございます。

では春野委員いかがでしょうか。

〈春野委員〉

事務所に今1人でして、さっき緊急の電話が入ってしまったので、肝心なところが聞けていないなという中で、発言もしにくいのですが、うちの団体は悪いことをしてしまったことも対象です。その時点で孤独・孤立ではないように見えますが、みんなで悪い事しちゃうとか、今どき的にはお友達ではないけれど、集まって悪いことしちゃう、その背景はやっぱり、孤独・孤立なんですよ。

今お話を聞きながら、少年院を出た子どもたちが集う場所として、「セカンドチャンス！」という団体があります。

埼玉では交流会を1回か2回やっていますけれども、そういう子たちが集まって真っ当に生きるうえで、例えば少年に限らないですが、警察に呼ばれた、或いは、鑑別所に少しの期間入った、或いは少年院に1年間行ってたというふうな子どもたちは少年院から戻ってきたときに孤立したり、孤独になったりすると、また再犯してしまう。そういうところがあって、その子たちの状況は、先ほどの話にもあった若年妊娠の問題とか出産の問題とかにもなりますし、貧困とか虐待とかそういうこともその背景の中にありますね。

支援してもらいよりもその子たちの気持ちとしては、やっぱり一緒に大変な中を頑張っていく仲間が欲しいという感じなんですよ。要するに真っ当な仲間、そういう仲間がないから、一緒に悪さをしてしまう仲間の方が、学校の先生とか、いわゆる支援者みたいな形の人たちよりも、居心地が良いからそっちに行っちゃう、孤独だなというのは、根本にあると思っています。

だから支援の場というところだけでなく、そういう子たちが、どうやってまともな仲間を作っていくか、要するに学校からも外れ地域からも外れてしまう、その環境自体がもっと暖かければいいんですけども、そこは急には良くならないので、全体を良くしていくということもあるし、その仲間づくりみたいなことをどうやって支えていってあげたらいいかなど。この前今お子さんが養護施設に入っている若い子がいて、自分が育てきれないその子も、同じような人と繋がりたいけれども、どこへ行くにもお金がかかってしまう。500円の参加費もきつい、みんなでカラオケ行って語ろうかというのも、お金を考えると躊躇してしまうと言っていました。そういうところに置かれている。仲間づくりもなかなか難しいなと思ったりしています。

ひきこもりの子もいるのでメタバースは、そういう子には多分すごく有効だろうなと思っていますが、その子どもたちの問題としてはそれを育てている親の大変さですね。相談を受けているのはそちらが大半で、そういう親も孤独・孤立です。40代ぐらいで、悪いこととしてある子どもの親は、今までは地域に居場所があっても、子どもに何か起きたときには、そこにいられない。気持ちの上でいられない。同情してもらっても、嬉しいわけではない、そこところが、孤立にしてしまうと思っています。

相談は数がすごく多いわけではないですが、うちの会では埼玉県が一番多いですが、全国から名前も言えないで、電話相談してくることもたくさんありますね。

状況報告みたいなことになりましたが、以上です。

〈中島会長〉

とても大事なメッセージをありがとうございました。支援型というよりも、対話型ですかね。仲間が欲しい、とても大事なメッセージだったと思います。

ひきこもりはオープンダイアログというひきこもり支援で、開かれた対話を本当に同じ思いを持つて人が一緒になって話をしていく中で居心地のいい空間が生まれていくなどと言われていますが、ありがとうございました。大事な切り口をいただいたと思います。

支援もとても大事ですが、支援とはまた違う空間も、とても大事ですよ。仲間同士、そういう場を作っていくことも大事なことだと思います。

大事な意見をいくつかいただいて参りましたので、今改めて議題 1 の論点のところ見ますと、改めて妊産婦や乳幼児の子育て期、ここの孤立をしっかりやっていこうと、そこはマッチングのネットワークもあつたりします。そういうのが上手に繋がれるような、そしてメタバースという方法もありますけども、うまく情報が共有できるような情報提供って意味で、SNS の年代に合わせての発信、そういうことが大事なのかなという議論があつたように思います。様々な社会資源、企業さんを中心に、環境としてできますよというお話もいただいたと思います。

一方で不登校経験のある若者になりますと、対象を明確にして、すでにある団体さんと繋がりがながら、いろんなイベントを打っていくこともいいのではないかと、支援というよりは、仲間づくりというようなところでしょうか。そんな大事さもお話をいただいたような気がいたします。

簡単な整理をしてみましたがこのあたりでいかがでしょうか。

こういったところを、さらに深めたいというご意見なども、いかがでしょうか。

〈東委員〉

事例のデータベース化は、例えば NPO 法人は、ポートフォリオみたいなのを作って出していただいてという方法もあるし、今日りそなさんが参加されていて、私の埼玉県立大学と、毎年りそなキッズアカデミーという、マネーアカデミーですかね、も協働でやらせていただいています。看護師体験をしようとか、子どもと保護者が集まってくるんですよ。そこでいろんな地域の関係ができていけて、りそなさんと埼玉県立大学と、その子どもと親がネットワークがつかれる、費用はりそなさんが出していただいて、人材も出していただいて、銀行の方が来て一緒に手伝っていただける。すごい助かっているのですが、そういう試みを企業の方でもされていると思うので、こういうのやっていますって一覧があると、わかりやすいかなと思いました。

データベースということだったので、例えばりそなさんはやっていると思って、発言させていただきました、以上です。

〈中島会長〉

好事例をまさにデータベース化するという中で、県立大学と埼玉りそなさんの素晴らしい実践のお話がありました。少し補足ありますか、鈴木さん。

〈鈴木委員〉

ご紹介ありがとうございます。

キッズマネーアカデミーは小学生向けの夏休みを活用したお金に関わる勉強、ということでやらしていただいて、全国でやっている中、うちは埼玉県でやっています。大体全部で回数と拠点が 50 ヶ所ぐらいですかね。夏休み 7 月 8 月で 50 ヶ所で、1000 人ぐらいの子どもを集めてやるような感じで、もう 20 年ぐらいやっています。武蔵野銀行さんもやられていると思います。多分全国の金融

機関でやっていて、ホームページから申し込んで、まさしく昨日ぐらいから申し込みが始まりました。

こどもの支援で、金融教育は正しいと思うのですが、先ほどまでいろんなお話が出てるところは、漏れているというかそこに全然たどり着かない子たちのお話を、今までずっとさせていただいていたのかと。おそらく親が子どもにもっと金融の勉強をさせたいとか、世界的にはすぐ金融教育が進んでいるのですが、日本は残念ながらまだ子どものときに金融教育を学んだ人は7%ぐらいしかいない。アメリカは20%以上いる。意識高い親が子どもに受けさせるようなそういうイメージを持っていますね。子どもだけで来るとか親が知らないで子どもが申し込むってことも当然ないと思うので、何か今やっている枠組みから、ちょっともう1歩踏み出してやる必要があると思っています。

夏休みだけでなく、市町村の小学生、中学生、高校生、大学生で幅広く、金融教育をやろうとは思っていますしやっていますので、また共有できるものがあれば、気づきがあれば、こういう場でご案内したいなと思います。ご紹介ありがとうございました。

〈中島会長〉

ありがとうございました。7%ですか、金融教育を受けている子どもたちって。

〈鈴木委員〉

そうですね、日本の20歳以上のアンケートで子どものときに金融教育を受けた子が7%しかない、金融教育も運用などは当然なのですが、今は金融犯罪が多く、大体18歳からローン契約、クレジットカードができるので、その前段階で、こういうの危ないよ、こういうのは詐欺だよと、そういう教育を今警察とコラボしてやっています。

〈中島会長〉

ありがとうございました。またこういう学びと、大学生が上手に繋がるとまた、学び合いだったり、縦関係だったりその大学生の居場所にもなったり、いろんな魅力が出てくるのかもしれないですね。

いろんなアイデアが出てきましたので、こういったものを少し整理しながらどんなことをやっていくかということになるかと思いますが、東先生からおっしゃっていただきましたように良い事例を見える化してデータベース化していくことはとても大事ななと思って聞いておりました。好事例の集め方というところで言うと、すでにこうやっておられることを集めていくことですね。

今のように学びの場に来られないような子どもたちの話も出ましたけども、(3)にありますけど、ニーズ把握や手法の話になってくるかもしれないんですが、来られない子どもたちは難しいですよ。そういう意味でメタバースは1つの方法なんですかね。なかなか対面では居場所行きにくいけど、メタバース空間だと、参加しやすいという人もいるかもしれないです。

〈坂本委員〉

先ほど武蔵野銀行さんがWi-Fiが使えるというお話があったと思うんですが、先ほどのメタバースでのつながるSAITAMAフェスタの開催期間、例えば銀行さんのここでWi-Fi使えますよみたいな、その告知のときに一緒に、通信料金気にしてアクセスできないような人のために、何かこの期間はここでやってもらっていいですよみたいな企業さんの協力の仕方もあるのかなと思いました。

先ほど埼玉りそなさんがおっしゃったお部屋でもいいですしWi-Fiを使ってここで参加できますよという情報もあわせて、教えてもらうとそういう格差の中にいる方にも、多少チャンスが開けるのかなというふうに思いました。以上です。

〈中島会長〉

ありがとうございます。武蔵野銀行さんいかがでしょうか。Wi-Fiの話から広がってきましたけれども。

〈谷口委員(代理:田中様)〉

私どもの施設であればぜひご利用いただきたいと思ひますし、私から言うのも恐縮ですけども県の方でもフリーWi-Fiの地域機関

がいくつかあると思いますので、利用できるようなところがあれば、ぜひご提供していただければありがたいかなと思います。また民間でもフリーのWi-Fiが使える場所があるようですので紹介してあげたりするのもいいのかなと思います。以上です。

〈中島会長〉

ありがとうございました。

先日、私どもの大学に、外の大学の学生さんたちが、株式会社を作っている学生さんと障害者施設を地域でどう展開するかワークショップをやって、非常に若者たちは無料の自由な居場所がいいという声が多かったですね。お金が入ってくるとハードルが高くなるという意見を若者たちがよく話していました。いろんなことを提供していただくと、その幅が広がっていいかなと聞いておりました。ありがとうございました。

そうしましたら、少し整理させていただくと、今日はたくさんご意見が出ましたので、それを少しベースにしていこうと思います。

川村さん、事務局的には、今日のような議論でよろしかったでしょうか。

〈事務局〉

大変参考になるようなご意見をいただきましたので、今日ご議論を整理させていただいて、県の各部局各課が入っているワーキングチームもございますので、おろしていきながら、関係部局を巻き込みながら、皆様のご意見を踏まえて、検討させていただければと思います。またご相談させていただく機会があるかと思いますが、ぜひよろしくお願いいたします。

〈中島会長〉

やはり子育てを社会全体でやっていくっていう考え方の中で、みんなで何ができるのかを少しずつ考えていくところに、いろんなアイデアがあるといいなと。

もちろんコアになるのは、親であったり、それを取り巻く方々だと思いますが、そこにあまりに役割が集中しすぎると、子育てに悩むことになる、寄り添える場といえますか、そういう思いを分かち合えるような場をどうつくっていくのかそういうところを、いろんな立場から、協力できるような場を作っていけたらということだろうと思って聞いておりました。

本当にいろんな社会資源があるのは私もこの時間だけで大分いろいろ勉強させていただいた、そういったものをまたさらに、意見交換会という形でやるときに議論ができればいいかなというふうに思っております。

そろそろまとめに入ろうかなと思いますが、ぜひこの点だけはお伝えしておきたいというようなことございますでしょうか。

〈東委員〉

先ほど好事例のところ、昨年度の最後に、中間就労というか引きこもりの子たちが、アルバイトまでいかないで、職業体験までいかないぐらいの何かができないかと提案しました。多分相当難しくて、今回メタバース空間、1週間ぐらいの期間なので、ぜひ民間企業さんの方で例えば、りそなキッズマネーアカデミーっていうのをこのメタバースの中で1週間の間やってみるとか試してみたらどうかと思いました。

他の企業さんもいろんなことをやっておられると思うので、メタバースの中で1日でも2日でもプログラムの中に入れてやってみるっていうのをご検討いただけたらなと思いました。私から以上です。

〈中島会長〉

そうすると今までそういったところに設定を持ちにくかった若者、子供たちが繋がることできるかもしれないってことですかね。ありがとうございました。そういった形でプラットフォームが、広がっていくといいかなというふうに思います。

十分今までの議論でもたくさんアイデアをいただいたので議事録を事務局で起こすと、かなりのいいものができてるんじゃないかなと思います。

〈神吉委員(星野様・高橋様)〉

最下流の児童養護施設を出た後につまずいている若者の対処療法的な支援をしていますが、実はもっと上流の問題を抱えている妊産婦のところから、或いはその要保護児童対策地域協議会の対象になるような家庭のところから、しっかりと目をかけ手をかけ、それぞれの、我々も含めて支援団体が、蝸壺化することなく横に連携をとりながらというのが、孤独・孤立の要諦ではないのかなと、今日皆さん方のお話を聞いて、また一層心に染みる素晴らしい会議になったなあという印象を受けました。ありがとうございました。

〈中島会長〉

ありがとうございました。本当に皆さんの今要保護児童対策地域協議会の話も出ましたけれども、本当にご支援いただいているというふうに思って聞かせていただきました。ありがとうございました。

妊産婦、乳幼児の子育て期における孤独・孤立対策が大きな柱になって議論をしていくということになると思います。それとあわせて、さらに不登校経験のある若者というところにも焦点を当てて、ここは少し対象を絞る。或いは、今日ご参加の皆さんの関わっているかたを対象に、もう少し絞る形で繋がって、何か企画できないだろうか。

或いは、先ほど東先生のご提案で、すでにこうやっていることを、メタバース上でやってみるという形で、今まで、つながれていなかった人が繋がることのできるかもしれない、そういうチャレンジをしてみたらどうでしょうかというような話があったと思います。

いずれにしても、好事例を集めていくということ、データベース化が大事になりますので、ぜひもうすでに、皆さん方で取り組んでいるすばらしい事例を、まずは持ち寄って、それを見える化していくと、県民の皆さん知っていただく、大事なメッセージになると思います。そしてイオンさんが先ほどおっしゃいましたが、広くやっていることが、いろんな方に伝わるように、こんなことやっているんだ埼玉県では、と広く子育てをしているお母さんお父さんに伝わるような、そんな形がとれるといいかなと思って聞いておりました。

一旦ここまでで整理をさせていただいて、事務局の方にお戻りする形でよろしいでしょうか。それでは、よろしく願いいたします。